

(8) 近 畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、一服感がみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

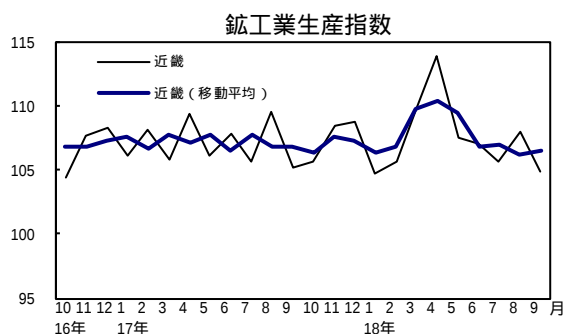
前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 8 月)	今回 (平成 30 年 11 月)	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きが続いているものの、一服感	↓
住宅建設	大幅に増加	増加	↓

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

7 - 9 月期には、「石油・石炭、化学、プラ製品」は、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、一部で台風 21 号の影響もあるものの、リチウムイオン蓄電池の生産等が増加したことにより、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、増加した。「窯業・土石、その他工業」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.9	1.7	▲3.8	1.5	2.3	▲2.1
電子デバ、電気、情報通信	18.0	▲3.4	1.0	3.4	2.9	▲6.8
汎・生産・業務用機械	17.9	12.4	▲8.7	▲9.0	3.3	▲2.2
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	0.7	1.0	1.9	▲0.7	2.8
窯業・土石、その他工業	9.6	▲1.9	▲1.6	1.2	0.3	▲0.3
鉱工業	100.0	2.6	▲3.0	▲1.3	2.2	▲2.9

(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2 . 7 - 9 月期、9 月は速報値。

(備考) 1 . 2010 年 = 100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

2 . 近畿の太線は中心 3 か月移動平均。
直近月は 2 か月平均。

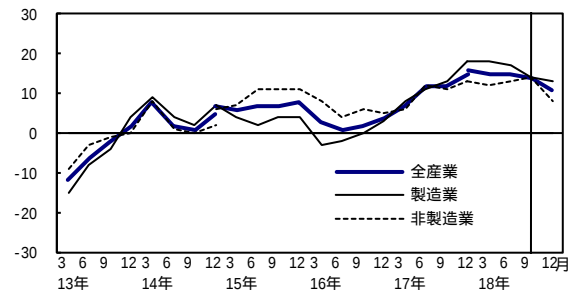
3 . 近畿は内閣府にて算出。

(8) 近畿

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

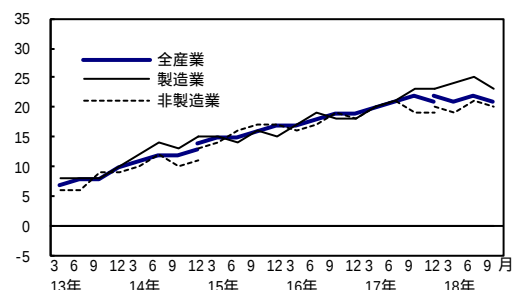
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



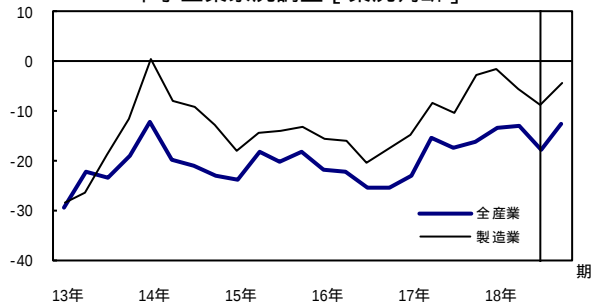
(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



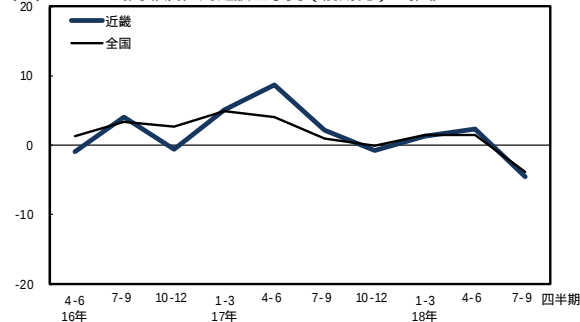
(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「大口先からの仕掛中の案件により、別の引き合い案件を見送らざるを得ない状況であるものの、引き合いの動きを勘案すると、大きな変化はない (輸送用機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費 (前期比) の推移



(備考) 1. 季節調整値。

2. 2018年4 - 6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

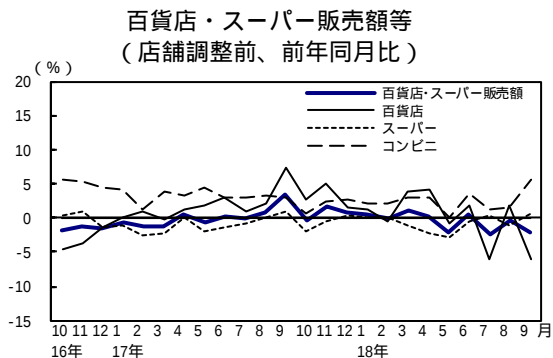
(前年度比, %)

	2017年度実績	2018年度見極
全産業	4.3	18.8 (1.3)
製造業	12.2	17.9 (0.6)
非製造業	▲1.3	19.4 (1.9)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。

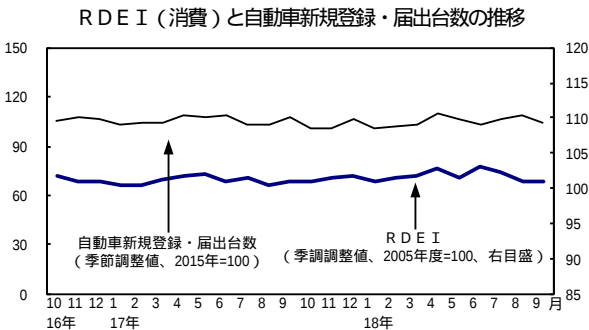
2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、一服感がみられる。
地域別消費総合指数 (RDEI (消費))
7月は前月比0.8%減、8月は同1.2%減、9月は同0.1%減となった。
百貨店・スーパー販売額
百貨店は、7月は、「婦人・子供服・洋品」、「飲食料品」等が振るわなかったことから、前年を下回った。8月は、「身の回り品」、「その他の商品」が好調だったことから、前年を上回った。9月は、台風21号等の影響により、「婦人・子供服・洋品」や「飲食料品」を始め、すべてが前年を下回った。
スーパーは、7 - 9月期は、「婦人服・子供服・洋品」、「その他の商品」などが振るわなかったことなどを受けて、前年を下回った。
景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]
「大阪北部地震や台風による影響から回復し、国内客、インバウンド客共に以前の水準に戻った。特に、国慶節以降は化粧品や特選宝飾品、食料品の売上が前年を大きく上回っている (百貨店)」などの回答がみられた。



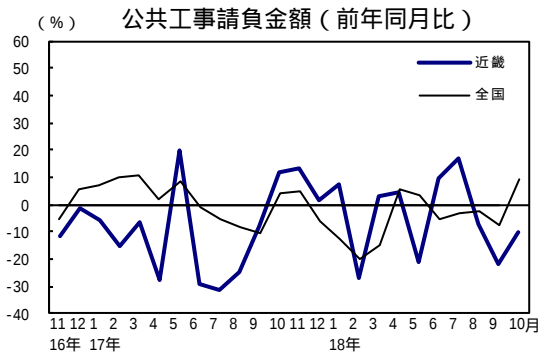
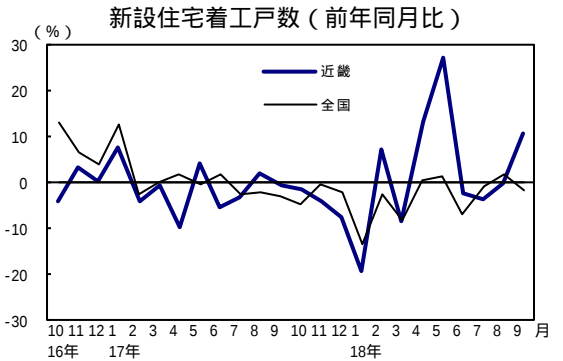
	2018年7 - 9月	2018年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲1.0	▲0.8	▲1.2	▲0.1
百貨店・スーパー(*2)	▲1.6	▲2.5	▲0.2	▲2.1
百貨店(*3)	▲3.7	▲6.0	1.7	▲6.1
スーパー(*3)	▲0.1	0.3	▲1.2	0.6
コンビニ(*3)	2.7	1.3	1.5	5.7
乗用車(*4)	1.0	4.4	4.7	▲4.3
(季節調整値)(*4)	▲0.3	2.4	2.4	▲3.6

- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿 (福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山) の値。
4. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。
分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



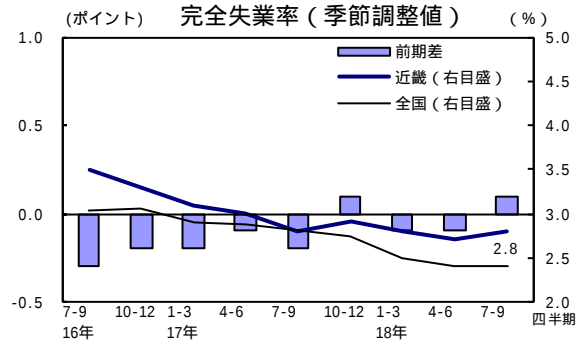
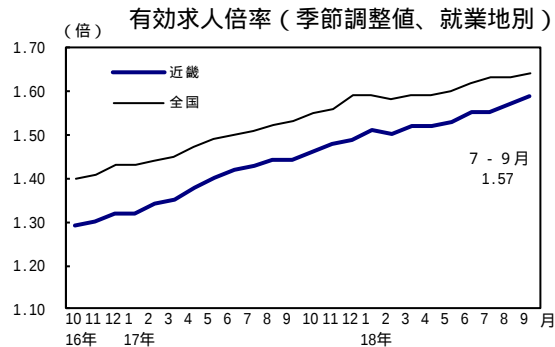
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（10月調査結果）〔雇用関連（現状）〕

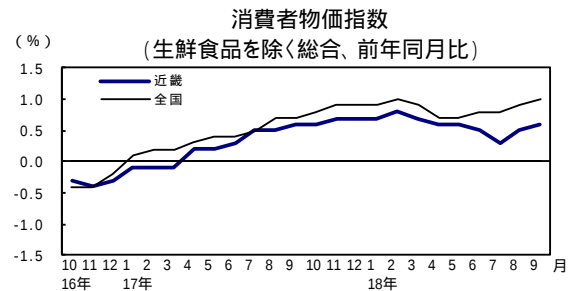
「今月の新規求職者数は、前年比で減少から増加に転じた。その一方、新規求人数は前年比で2けた減となった結果、2か月連続で減少している。ただし、新規求人倍率は依然として2倍を超えており、高止まりで推移している。相談窓口での特徴としては、職業相談を行っても紹介に至らないケースが多く、採用に結び付いていない。また、不採用の理由では技能経験不足が目立っている（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は減少、負債総額はおおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数 (前年比)	541 6.7	537 6.1	550 ▲2.3	471 ▲16.0	200 5.3
負債総額 (前年比)	539 ▲90.7	616 28.1	655 16.8	566 ▲0.8	226 14.2



景気ウォッチャー調査(季節調整値)

